

清水様

◎訓練法
(一)
(二)

昭和五十三年十二月

亀田先生最後の原稿

柳村

○訓練法

(一)

昭和53年12月3日 弘

今までの教回によつて、今年2月から以降
の私の心の動き方を書き綴つて来たが、これ
を皆さんなりに理解して、序自身に向くよう
に実行されれば、大体この自然界の生物とし
て、然かも、それを自から納得した生活や志向
によつて生きることができると思ひます。
私は未だ神を探り当てていない。前世も来
世も現在研究中であつて、未だ確かにしてい
ない。しかし、アト四十三日ハ十三才になる

となれば、おなうく私は生存中にはそれ等
を握^ミみ得ないかも知れない。それでも私には
自^ミ自からの仕事である透^ミ現と幻^ミ現、それから他^ミ心。
と云つて、相手方の心の動きを察知する事を撤^ミ
底的に究めてそれを日常の茶飯事にまで解^ミ
明して、現代や次代に活かす日本人の資^ミ
質の中^ミに10%位は居る筈の正^ミ理に応用
して世間うねめの研究がある。
その上に、私が自^ミから此の自然^ミ界に在る生
きものとして、真理に則つて生きる事は、私

としては生きがいのある事であつて、勇氣凜然猛烈に生きることが出来る氣力が湧いて来るのである。

さて、そこで私のそれ等の氣力の源泉はと云えば、即ち私加此の自然界にある已れの立場を僞る所なく納得して識る上に、自からの生活をそれに応⁷⁺じしものとし、その上に臨機に已れの身心をリラックスし、然かも私心邪心の無い処の大きな意欲を持つことである。

~~私の心~~

人であつた今は故人となられ、佐

々木禿庵老師は、修行中密禪をして、只管に
無^に心身を打ちこんで悟られた。臨濟禪では
常識の分別を越えた如の公案を授けられて、
それには扱って悟る。國際下。M^協会等の合流
行しているヨイかの流れを掬む超越瞑想の連
中はマントラと称する如の意味の無い言葉に
ならない響きとでも云うべき、曰々字では三
つか四文字^を連らねたものを一人に念じて堅
めるのである。
以上は何れを考えたも、言葉葉の分別を離れ

て、瞑目靜堅して、環境から超然として数す
 分乃至教時間、自我を超越することによつて、
 我々生物が祖先達から遺伝されて、その大脳
 に持つてゐる如のもので人間に於ては潜在意
 識と云われるものを表層に引き出すものであ
 る。勿論、フロイトの所謂潜在意識は、我々が生
 後に好ましくない如の印象を受けたものであ
 つて、歪められたいものであるから、これは当然
 瞑想中に解消してしまふものである。
 我々が一度祖先伝来の深層に存する潜在意

識を呼び出すことを得ると。その後、それを
手にかかりとして、各自各様の遺伝的素質によ
つて、その人なりの所謂超能力と称されるもの
のが発現するものであるが、私はそれを身心の
のリラククスによつて、言語に現る分別を忘
れ、此時を持つことによつて、為そうとするもの
のであつて、そこには神も、仏も、超越も瞑
想も、あらゆる儀式や有難い装備も必要とし
ない、人間が真の人間としての力を発現する
ための努力を自から独力で為さんとするもので
ある。
次項は先づ自己暗示を考へ